

矢板産のぶどうでワインを造りたい！ 根本ぶどう園

市内で一カ所だけぶどう狩りができるのが塩田地区にある「根本ぶどう園」です。田園の中に何棟も建つハウスでは今年も児童施設や老人福祉施設など、多くの方がぶどう狩りを楽しみました。園主の根本力(つとむ)さんにぶどう園のこれまでと、これからの話を聞きました。

●栽培のきっかけは？

父親が昭和二十二年から始めました。終戦で部隊が解散する際、上官に「今、日本は戦争に負けて食べる物も何もかも不足しているが、必ず生活が豊かになる日が来る。その時、人々は嗜好品を求めようになる」と言われたそうです。その言葉がきっかけで、少ない農地面積の有効活用と土地に合う農産物、できるだけ早く収穫ができる物、将来嗜好品にもつながる物として、ぶどうの栽培を始めたそうです。その時点でいずれワインを造

ることも視野にいったと父から聞かされました。●栽培は順調でしたか？ 土壌検査の結果、土地がぶどう栽培に合わないため、県農業試験場の指導を受けて土壌改良から始めました。ぶどうとぶどうの畝の間にトマトを植えることで、ぶどうに適した土地になり、トマトは出荷して、私の高校の学費にもなりました。

●ぶどう栽培に関わり始めたのはいつごろからですか？現在の人手は？

本格的に携わり始めたのは十八歳からです。父

親があまり工夫ではなかった。以前から作業の手伝いはしていましたが、高校生の時、旧岩舟町のぶどう農場で一カ月研修を受けました。その時に「品質が第一」であること、必要な物を必要な時期に必要なだけ与えることが重要だと教わりまし

●こだわっている事は？

私のぶどう園では、傷ついたり落ちた実を加工製品にしません。また、葉、枝なども全て、土に



●今後の夢は？

父親が「ワイン造りの夢」を残してくれたように、私も後継者に対して夢を残したいと考えています。ワインの醸造自体は他の方にお任せしているので、私の「ワイナリーを作る夢」を後継者に引き継いでもらいたいです。(記者の感想)

天候に左右される果樹、力さんも二年続けて病気が発生し無収穫の時があったそうです。「ぶどう園を続けられたのは良い指導者、研究者などに恵まれたから」と話してくださいました。矢板の美しいりんごも同じように頑張る生産者、良い指導者や研究者に恵まれたからでしょう。また「ぶどうの実がぶどうの木への感謝の表れ」という言葉が印象的でした。

三年前に還暦を迎え、節目に残るものとして造りました。ワイン造りは父親の夢でもあったので、自然とワインを造る思いが出てきました。「なぜキャンベルを使ったのか」と聞かれますが、栃木のぶどうといえばキャンベルだったので、その名前を残していきたいという思いも含まれています。



珍しいぶどうネヘレスコール

●出荷先は？

インターネット通販サイト「オイシックス」に六割、ぶどう狩り・直売で二割、その他は道の

●問い合わせ

根本ぶどう園
住所…塩田五八〇
電話…(四三) 九三八二